

(令和3年度先導的官民連携支援事業)

福井駅周辺における歩行者空間活用に向けた  
官民連携可能性調査

報 告 書

令和4年3月

福井県福井市

森ビル都市企画株式会社 まちづくり福井株式会社



## 目 次

1 章. 本調査の概要 .....	5
1-1. 調査の目的 .....	5
1-2. 自治体の概要 .....	6
1-3. 事業発案に至った経緯・課題 .....	8
1) 地区が抱えている課題 .....	8
2) 上位計画との関連性 .....	11
3) 上記課題への対策としてこれまで実施している施策や調査等 .....	12
4) 当該事業の発案経緯 .....	13
5) 当該事業の意義・必要性 .....	14
1-4. 本調査の検討体制 .....	14
2 章. 本調査の実施内容 .....	16
2-1. 調査実施概要 .....	16
2-2. 調査の流れ .....	17
3 章. 事前調査（トライアルサウンディングの事前調査） .....	18
3-1. 調査の概要 .....	18
3-2. 社会実験前アンケート調査 .....	19
1) 目的・調査方法 .....	19
2) アンケート結果 .....	22
3-3. 社会実験前ワークショップ調査 .....	27
1) 目的・実施方法 .....	27
2) ワークショップの実施内容、実施結果 .....	28
3-4. Instagram 調査・分析 .....	35
3-5. 実験協力・協賛事業者 .....	35
1) 実験協力・協賛事業者と内容一覧 .....	35
2) NTT 西日本の協力による人流分析調査の概要 .....	36
4 章. 社会実験の実施 .....	38
4-1. 社会実験の空間構成および実施企画 .....	38
1) 社会実験の主旨 .....	38
2) ほこみち検討対象エリアにおける社会実験実施箇所の検討 .....	38
3) 社会実験計画 .....	39
4) 社会実験実施手法および体制 .....	49
4-2. 社会実験の運営状況 .....	51
1) 社会実験期間の状況 .....	51
2) 社会実験管理運営 .....	53

3)	社会実験現地調査 .....	56
4)	人流・滞留状況の分析結果の概要.....	65
4-3.	Instagram インサイト調査内容.....	66
1)	インサイト分析.....	66
2)	アンケート調査依頼とキャンペーン.....	69
4-4.	メディア対応 .....	71
1)	福井放送、福井新聞、日経、ソトノバ、他個人サイト記事.....	71
5 章.	結果分析 .....	73
5-1.	社会実験後フォローアップ調査.....	73
1)	通勤者アンケート結果.....	74
2)	事業者アンケート結果.....	75
5-2.	社会実験後ワークショップ .....	76
5-3.	社会実験結果の考察 .....	80
6 章.	ほこみち利活用計画案.....	89
6-1.	ふくみちのコンセプト・利活用方針.....	89
6-2.	事業者および協力企業へのサウンディング.....	90
6-3.	道路機能・整備要素の整理 .....	93
6-4.	ほこみち対象道路の空間構成案.....	99
1)	中央大通り北側（放送会館側） .....	99
6-5.	ほこみち指定道路および利便増進誘導区域案.....	108
7 章.	事業化方針および占用指針案の検討.....	110
7-1.	先進事例等の研究.....	110
7-2.	ほこみち運用手法・運用体制の検討.....	115
7-3.	事業者選定および道路占用指針案の検討.....	118
1)	道路占用指針案検討にあたっての前提条件.....	118
2)	道路占用指針案.....	124
8 章.	今後の進め方 .....	137
8-1.	ロードマップ .....	137
8-2.	今後の検討課題.....	137

## 1章. 本調査の概要

### 1-1. 調査の目的

本調査は、歩行者利便増進道路（ほこみち）（以下「ほこみち」という。）制度を活用し、歩行者の滞留空間・賑わい空間を導入するにあたり、その整備手法として、民間活力の導入可能性を検討するとともに、ほこみち制度利用により、道路空間の継続的利用に対する福井駅周辺のにぎわい創出への効果について、「先導的官民連携支援事業」に沿って、必要な調査を実施するものである。

ついで、各種調査や対象エリアにおける歩行者空間の社会実験を通じて、ほこみち制度等を活用した道路の利活用計画を検討すること、及びほこみち制度活用に向けた公募占用指針を作成することを目的とする。

本調査の検討対象範囲は、以下のとおりである。

- ・中央大通り（県道、道路延長L＝約400m、幅員W＝44m）
- ・県庁線（市道、道路延長L＝約130m、幅員W＝20m）
- ・駅前電車通り（市道、道路延長L＝約270m、幅員W＝22m）

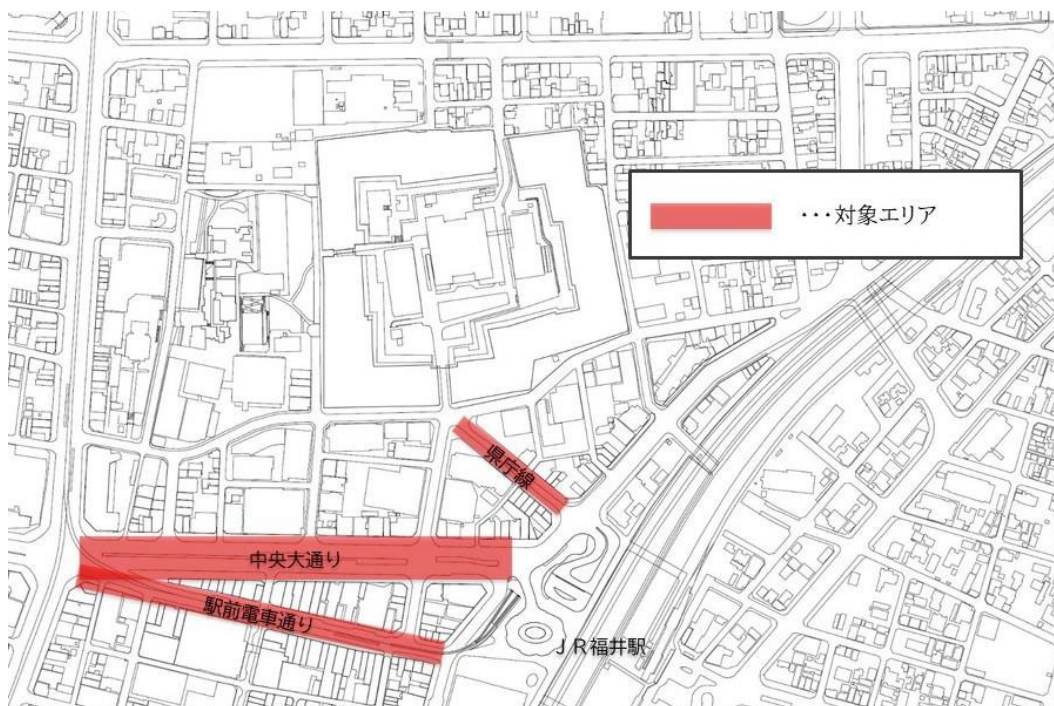


図 1-1-1 本調査の対象地区

### 社会実験の実施

本調査で作成される社会実験計画に基づき、以下の内容で社会実験を実施した。

- ・社会実験の期間は、令和3年10月2日（土）～17日（日）で行った。
- ・実施エリアは、図 1-1-1 の検討対象エリアの一部（中央大通り、県庁線）を使用し、実験を行った。

## 1-2. 自治体の概要

福井県福井市は、福井県北部（嶺北）に位置する福井県の県庁所在地で、平成 31 年 4 月 1 日に中核市に移行している。面積は 536.41 平方キロメートル（平成 27 年 10 月 1 日現在 国土地理院資料より）市の中心駅である福井駅までは大阪駅から北陸本線特急を利用して約 2 時間弱、東京からは陸路で新幹線を利用して約 3 時間 20 分、空路を利用して約 3 時間 30 分の位置にある。



図 1-2-1 福井市の位置

明治 22 年に市制が施行され、福井市となり、当時の人口は、3 万 9863 人、面積は、4.43 平方キロメートルであった。

以来、福井県において政治、経済、文化の中心都市として発展を続けている。その間、昭和 20 年 7 月の空襲、昭和 23 年 6 月の福井大震災など、数度にわたって壊滅的な打撃を受けたが、市民の不屈の精神によって今日の『不死鳥のまち福井』を築き上げてきた。また、平成 12 年 11 月には特例市に移行し、平成 18 年 2 月 1 日には、隣接する美山町、越廼村、清水町の 3 町村と合併した。現在、地域の特色を生かしながら日本海側の主要都市としてまちづくりを進めている。

福井市の人口・世帯数（住民基本台帳人口：令和 4 年 1 月 1 日現在）は、総人口 259,644 人、世帯数 105,796 世帯である。

第 7 次福井市総合計画によると、国勢調査では、福井市の人口は平成 7 年（1995 年）の 272,970 人をピークに減少期に入り、近年の推移も、平成 22 年は 266,796 人、27 年は 265,904 人と減少を続けている。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によると、2040 年には 216,298 人となり、約 5 万人の減少が予測されている。

平成 27 年に策定した「福井市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」では、この人口減少傾向を克服すべく様々な施策に取り組み、約 2 万人の改善を図る長期展望を示している。

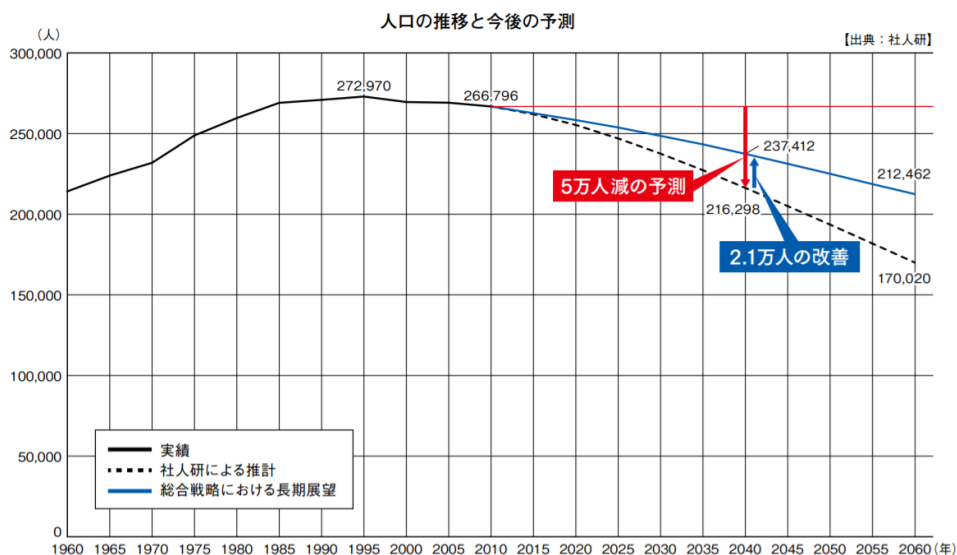


図 1-2-2 福井市の人口推移、今後の予測（社人研より）

通勤・通学流動状況を見ると、方向別の流出状況は、鯖江市（4,293 人）、越前市（2,957 人）、旧春江町（2,300 人）の順に多く、経年的に増加傾向にある。

方向別の流入状況は、鯖江市（7,801 人）、旧丸岡町（6,041 人）、越前市（5,424 人）の順に多く、経年的に増加傾向にある。

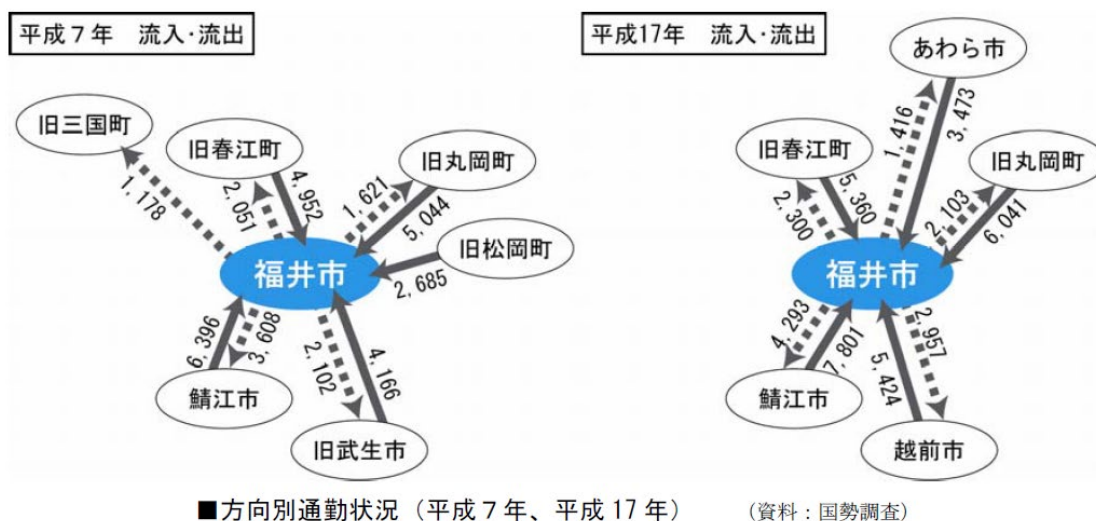


図 1-2-3 方向別流入・流出状況（国勢調査より）

### 1-3. 事業発案に至った経緯・課題

#### 1) 地区が抱えている課題

##### ① 都市の競争力強化、官民連携による良好な市街地環境の形成

平成 30 年に策定された「福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画」によれば、福井駅周辺及び福井城址周辺の抱える課題を以下のとおり整理している。

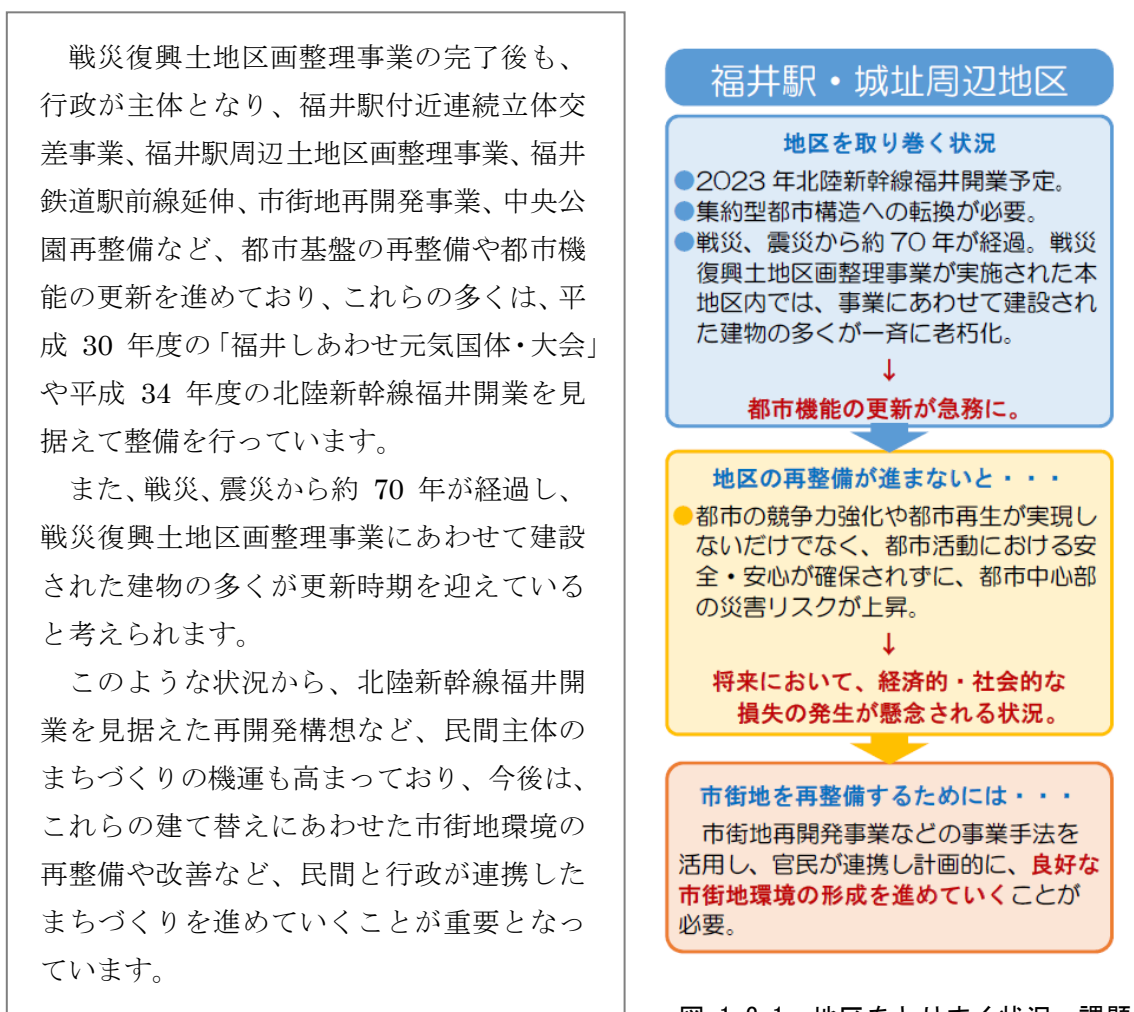


図 1-3-1 地区をとりまく状況・課題

〈福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画より〉

こうした地区の再整備が進まない場合には、都市の競争力強化や都市再生が実現しないだけでなく、都市活動における安全・安心が確保されずに、都市中心部の災害リスクが高まることにより、将来において、経済的・社会的な損失が発生することが懸念される。

このような課題に対応した市街地の再整備を進めていくためには、市街地再開発事業などの整備手法を活用しながら、官民が連携し計画的に、良好な市街地環境の形成を進めていくことが求められる。



② 地区の歩行者ネットワーク、歩行空間の充実によるにぎわいの創出

一方で、市の中心部の歩行者ネットワークをみると、歩行者空間が十分に確保されていない道路が点在している。

足羽山から養浩館庭園にかけて、歴史資源を結ぶ歩行者ネットワークとして「歴史資源をつなぐ回廊」が設定されており、ルート上では、まち歩きしやすい環境を整えるために公共サインの設置などが進められているが、一部区間で歩道が片側のみとなっているなど、歩行者空間の確保が十分でない区間が見られる。

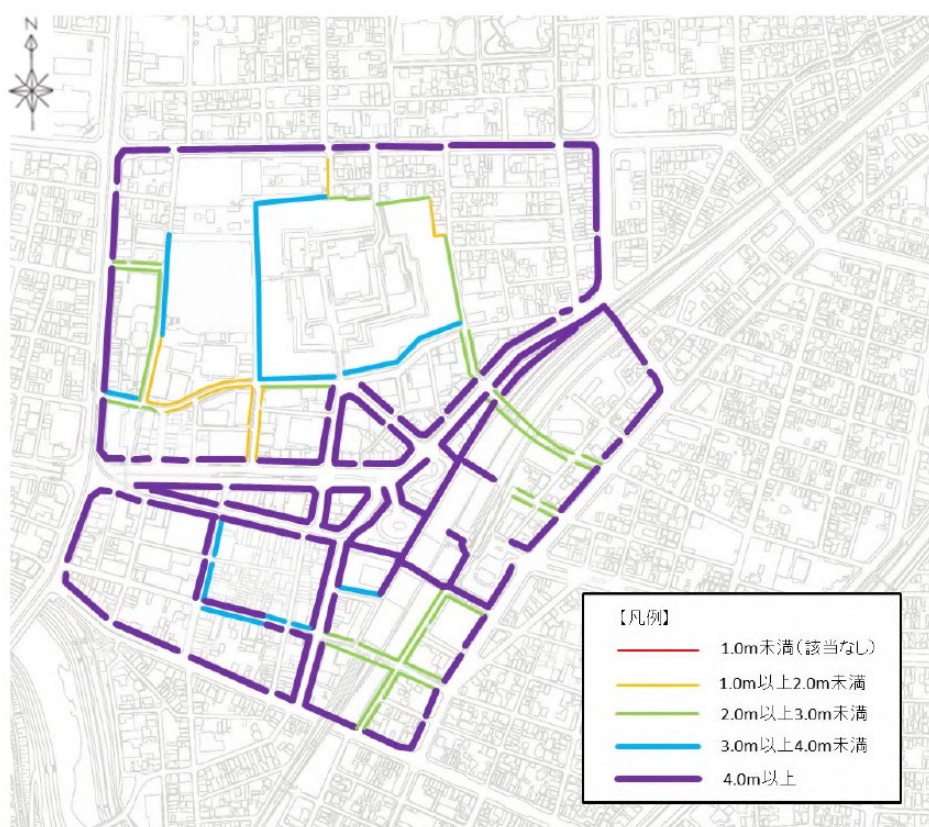


図 1-3-2 歩道幅員別調査図（福井市都市整備室調べ、平成 29 年時点）

次に、福井駅周辺における歩行者・自転車通行量は、年間平均でみると平成 27 年以降増加に転じており、全体的には約 2 割の増加となっている。平日と休日を比較した場合には、休日の通行量の方が多く、平日平均の通行量は休日平均とは対照的に減少傾向となっている。

調査地点別にみると、ハピリン前から駅前電車通りにかけて（次ページ図の調査地点 4, 5, 10）の通行量が突出して多い。一方、アップルロード（調査地点 8）や北の庄通り（調査地点 9）、駅前南通り（調査地点 6）では、駅前電車通りほどの通行量の増加はなく、ガレリア元町（調査地点 7）では減少傾向となっている。また駅前電車通りの北側以

北（調査地点1，2，3）も同様に減少傾向であり、駅前電車通りの北側と南側でも通行量に大きな差が生じている。

当該エリアでは、ギャラリーポケットやアップロードを活用したイベント開催などの取り組みを実施している駅前電車通り南側を軸とした賑わいは生まれているものの、駅前電車通りの南側、北側共に周辺へ十分に波及していないことが伺える。

今後は、再開発事業等による施設整備を契機に、駅前電車通りの北側では沿道施設と一体となった街路空間整備や、アップロード、ギャラリー元町や中央通りを含めたエリア全体の賑わい創出を図る取り組みが必要である。そのためにも、本調査対象となった中央大通り、駅前電車通り、県庁線においてほこみちを活用して歩行者中心の賑わい空間を創出することには大きな意義がある。

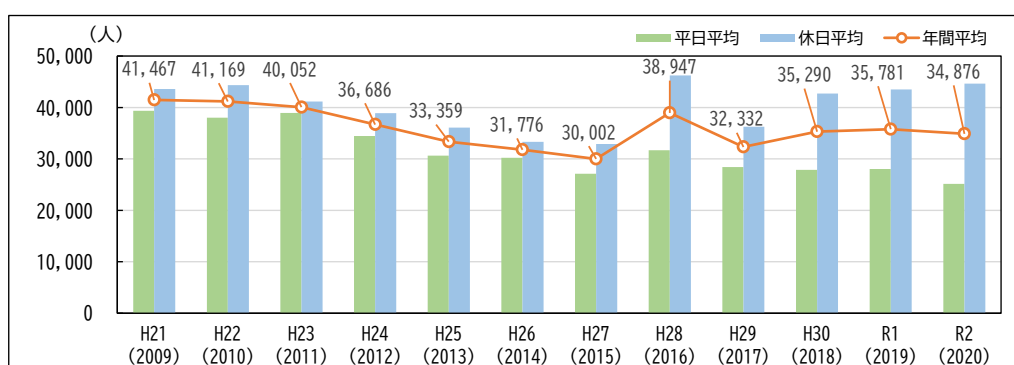
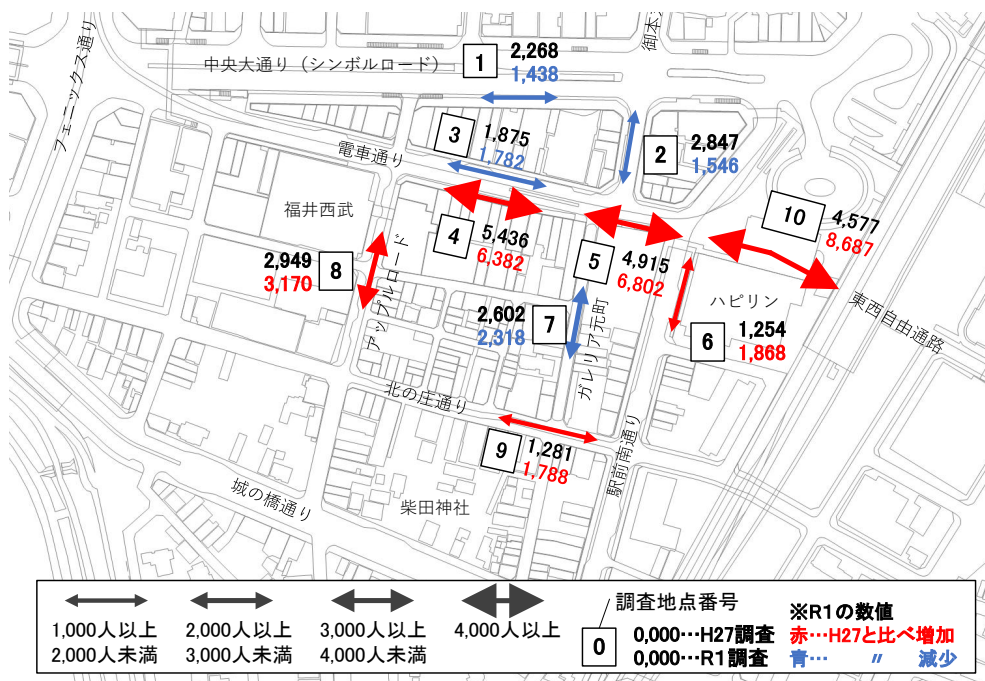


図 1-3-3 歩行者・自転車通行量の推移 (H27~R2) 〈出典：福井市都市整備課〉



1-3-4 調査地点別の歩行者・自転車通行量 (H27~R2) 〈出典：福井市都市整備課〉

## 2) 上位計画との関連性

### ① 都市計画マスタープラン

当該事業地区を含む福井駅周辺は、都市計画マスタープランに位置付けられた市街地中心地域である。

都市計画マスタープラン地域別構想の地域区分「1. 市街地中心部」のまちづくり方針によれば、当該事業地区周辺については、「JR 福井駅周辺の総合ターミナル機能の強化」「平面駐車場の集約化」「回遊性のある魅力的な歩行者空間の確保」を進めることとしている。また、安全で快適な歩行者空間の確保のために、道路の無電柱化、舗装の高質化を推進するとしている。

### ② 第2期福井市中心市街地活性化基本計画

当該事業地区を含む福井駅周辺は、第2期福井市中心市街地活性化基本計画に位置付けられた中心市街地である。

中心市街地活性化に関する基本的な方針③ 遊ぶ「歩きたくなる素敵な境界形成と多様な余暇活動の舞台として演出する」では、人が集まる立地特性を活かしながら、来街者が雨や雪を避けて回遊できる魅力的な空間づくりと、市民を主体とした様々な活動を支援し、中心市街地におけるにぎわいを創出するために、以下のような事業を展開するとしている。

#### 【歩きたくなる素敵な境界形成を推進する事業の展開】

にぎわい軸や浜町境界をはじめ、中心市街地全体で歩きたくなる素敵な境界形成を推進するため、以下の事業を展開する。

- ・ 歩行空間と沿道の店舗などが一体となった洗練された魅力的な空間形成
- ・ 若者によるまちなかへの出店、積極的な起業支援による新たな魅力の創造
- ・ 継続的なにぎわいの舞台づくりの推進

#### 【多様な余暇活動の舞台として演出する事業の展開】

長い時間楽しむことができる多様な余暇活動の舞台を演出するため、以下の事業を展開する。

- ・ 市民や来訪者による多様な交流を育むまちなか交流施設の整備
- ・ 既存イベントの活性化や、新たなイベントの開催など、にぎわいを生むイベント
- ・ 官民が連携した効果的なPRと情報発信

方針③の事業の展開図をみると、駅前電車通りの既存の賑わいと合わせ、福井城址から福井駅にかけての「歴史の道」においても、にぎわいなど主な人の流れを創出することを目標としており、ほこみち事業が活性化に寄与することが期待される。

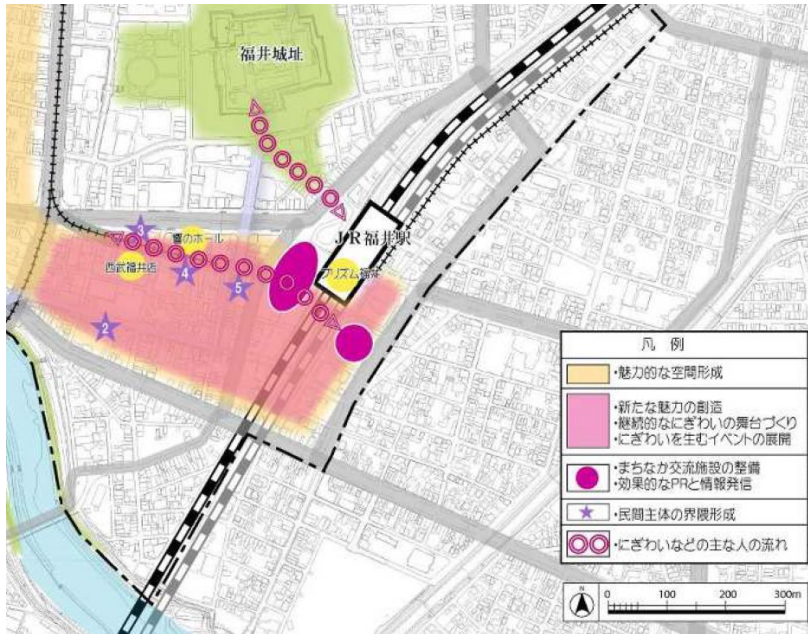
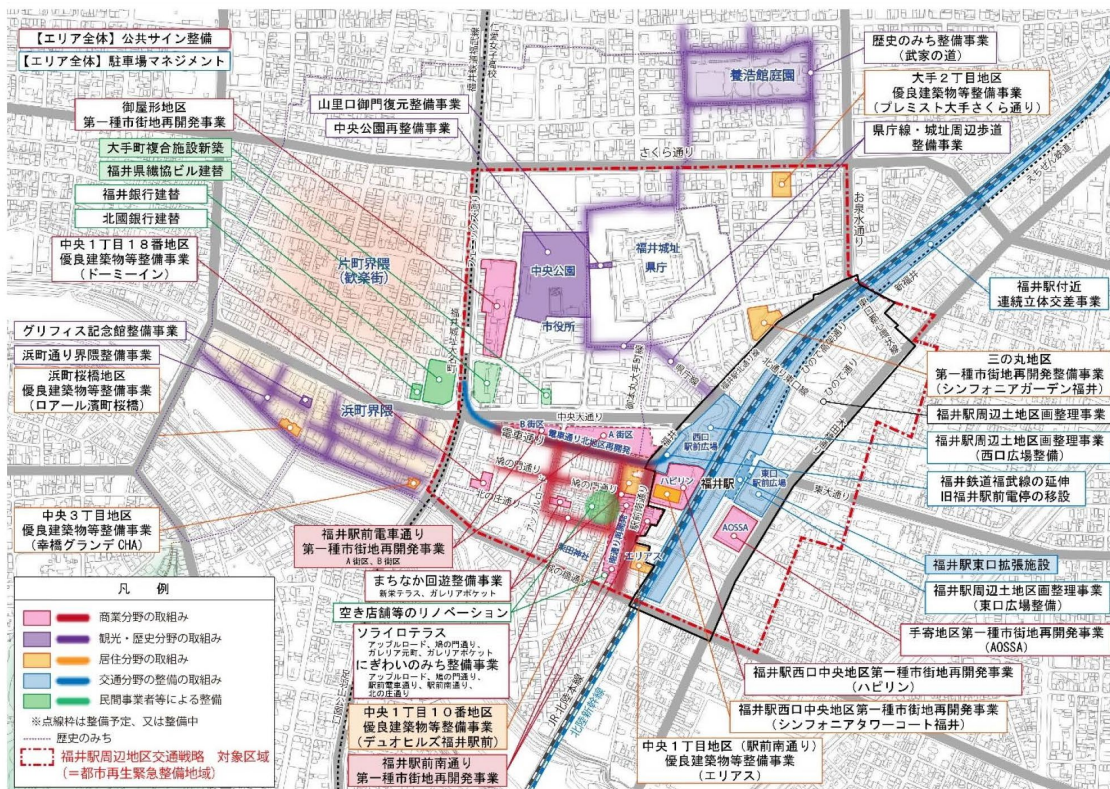


図 1-3-5 方針③事業の展開（第2期福井市中心市街地活性化基本計画より）

### 3) 上記課題への対策としてこれまで実施している施策や調査等

#### ① これまでのまちづくりの取り組みと今後の動向



1-3-6 これまでの取り組みと今後の動向

福井駅の西口、東口では、県都福井の玄関口として、賑わい溢れる都市拠点の形成を図るため、市街地再開発事業をはじめとした施設整備を行ってきた。

A O S S A、ハピリンといったにぎわい拠点は市街地再開発事業により整備された。また、福井駅西口南側のエリアでは、店舗跡地や低未利用地をイベント開催等も可能な広場空間として活用したガレリアポケット、新栄テラスの整備や空き店舗のリノベーションにより新たな出店者が進出するなど、賑わいが生まれる場づくりを行ってきた。

また、にぎわいの道づくり事業による沿道施設との一体的な景観に配慮した舗装の高質化や、アップルロード、ガレリア元町、鳩の門通りの路上とガレリアポケットを活用した「ソライロテラス」における民間事業者等と連携したイベントの開催など、まちなかでの滞在時間の増加や回遊性を向上し、賑わい創出を図ってきた。

#### 4) 当該事業の発案経緯

当該事業の発案から事業化に至るまでの経緯は以下のとおりである。

令和2年度	<p>福井市においては、令和5年度末に控えた北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺における再整備が進んでいる。そういった中で、福井駅周辺に持続的になぎわいを創出することを目的として、福井県、福井市、企業、団体が一体となって県都のまちづくりについて協議する会「県都にぎわい創生協議会」が創設された。</p> <p>「県都にぎわい創生協議会」の部会の一つである「エリアマネジメント部会」では、2040年を目標とする長期的構想（ランドデザイン）を策定予定。</p> <p>そして、その構想の中で、公共空間の利活用を促進することを目的に歩行者利便増進道路制度（ほこみち）の活用を検討することとなった。</p>
令和3年度	<p>福井駅周辺における歩行者空間活用に向けた官民連携可能性調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会実験の実施</li> <li>・アンケート調査、ワークショップの開催等</li> <li>・公募占用指針の検討</li> </ul> <p>中央大通りの詳細設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会実験の結果や需要を設計に反映（電源設備、ベンチ等）</li> </ul>
令和4年度	<p>中央大通りの再整備</p> <p>持続的になぎわい創出のため「ふくみち」事業を継続的に行う</p>
令和5年度	<p>中央大通りの再整備</p> <p>持続的になぎわい創出のため「ふくみち」事業を継続的に行う</p> <p>北陸新幹線福井開業（令和5年度末）</p>
令和6年度	<p>ほこみち運用開始</p>

## 5) 当該事業の意義・必要性

改めて、当該事業の意義と必要性は以下の3点にまとめることができる。

### ① 福井駅周辺市街地における歩行者回遊空間の創出

当該地区周辺は歴史資源を結ぶ歩行者ネットワークとして「歴史資源をつなぐ回廊」が設定されているが、十分な歩行者空間が確保されていない。福井駅と中央公園、整備が進む再開発エリアを含む市街地全体で歩きたくなる界限形成を実現するため、当該事業は必要である。

### ② 住む人・働く人・街を訪れる人のための滞留機会の創出

中央大通り北側にはオフィスが集積する従業エリアとなっているが、ランチをする店舗が不足するなど人が滞留、楽しむ場所が少ない。当該事業地区周辺に住む人・働く人・街を訪れる人が楽しみ滞留する空間を創出するため、当該事業は必要である。

### ③ 公共空間を活用した官民協働によるまちづくり、良好な市街地環境の形成

北陸新幹線福井開業を見据えた再開発構想など、民間主体のまちづくりの機運も高まっており、公共空間の活用や民間開発との連携にも期待が高まっており、官民協働によるまちづくり、良好な市街地環境の形成を図るために当該事業は必要である。

## 1-4. 本調査の検討体制

### ① 庁内の検討体制

本調査は福井市都市戦略部都市整備課が実施し、ほこみち事業に関係する庁内各課の協力を得て検討を行った。

<input type="checkbox"/> 担当部署	都市戦略部都市整備課
<input type="checkbox"/> 関係部署	建設部監理課（道路管理者）

### ② 官公庁の関係者との協力体制

福井県をはじめとした関係機関との協力体制は以下のとおりである。

・ 道路管理者（県）	福井県土木部道路保全課、福井土木事務所管理課
・ 県道設計・施工	福井土木事務所道路第一課
・ 交通規制協議	福井県警交通規制課、福井警察署

### ③ 民間事業者、市内協力企業等との協働体制

調査にあたっては、森ビル都市企画株式会社及びまちづくり福井株式会社に業務を委託した。また福井に立地する様々な企業や地域金融機関、地元団体の協力により調査検討を進めた。

□調査委託

- ・ 企画・調査コンサルタント：森ビル都市企画株式会社
- ・ 社会実験企画・現場運営：まちづくり福井株式会社

□協力

- ・ 福井県立大学准教授 高野氏
- ・ デザイナー高岡氏 RIPEN 高野氏 有限会社アドプランニングエビスヤ
- ・ 合同会社ツギ
- ・ IRIS
- ・ 福井県キッチンカー協会
- ・ 社会実験キッチンカー出店事業者、路面店・近隣店舗、設備機器提供各社

□協賛

- ・ 旭化成アドバンス、NTT 西日本、フクビ化学工業株式会社、福井市園芸センター

□サウンディング協力


- ・ 福井駅周辺立地企業各社

## 2章. 本調査の実施内容

### 2-1. 調査実施概要

本事業を「ふくみち」と名付け、以下のとおり事業を実施している。

#### ① 事業概要

事業名称	福井駅周辺における歩行者利便増進道路事業 福井版ほこみち事業 略して「ふくみち」
コンセプト	「みち」から「まち」を変えていく
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほこみち」制度の適用検討路線において、居心地が良くにぎわいや歩行者の回遊を創出する道路空間の利活用計画検討</li> <li>・検討対象路線において、市民の利用や事業者の参画可能性を探るための社会実験の実施</li> <li>・「ふくみち」に対する市民の理解、期待や意向、事業者の参画意欲や参画条件を探るため、アンケート調査、ワークショップをはじめとした各種意向調査の実施</li> <li>・道路空間の活用の担い手の発掘、道路空間運用方針の検討、道路占用公募指針、活動を支援する仕組みの検討など</li> <li>・道路整備につなげる空間設計指針の検討</li> <li>・道路設計・工事、ほこみち占用者公募など（次年度以降）</li> </ul>
社会実験場所	中央大通り北側、県庁線、ほか市道の一部（4章参照）
周知ロゴマーク	 <p>The image shows the logo for the Fukumichi Project, which consists of four stylized, colorful shapes (orange, green, yellow, blue) arranged in a square pattern. Below the logo is the text 'FUKUMICHI PROJECT'. To the right of the logo is a photograph of a hand holding a clear plastic cup filled with a yellow beverage, with the Fukumichi Project logo on the cup.</p>

#### ② 主な調査・事業のスケジュール

令和3年7月 企画立案 関係者協議

令和3年8月 社会実験場所確定 空間設計・出店者の配置

令和3年9月 警察協議・福井市監理課協議 道路使用許可申請

令和3年10月2日～17日 社会実験期間

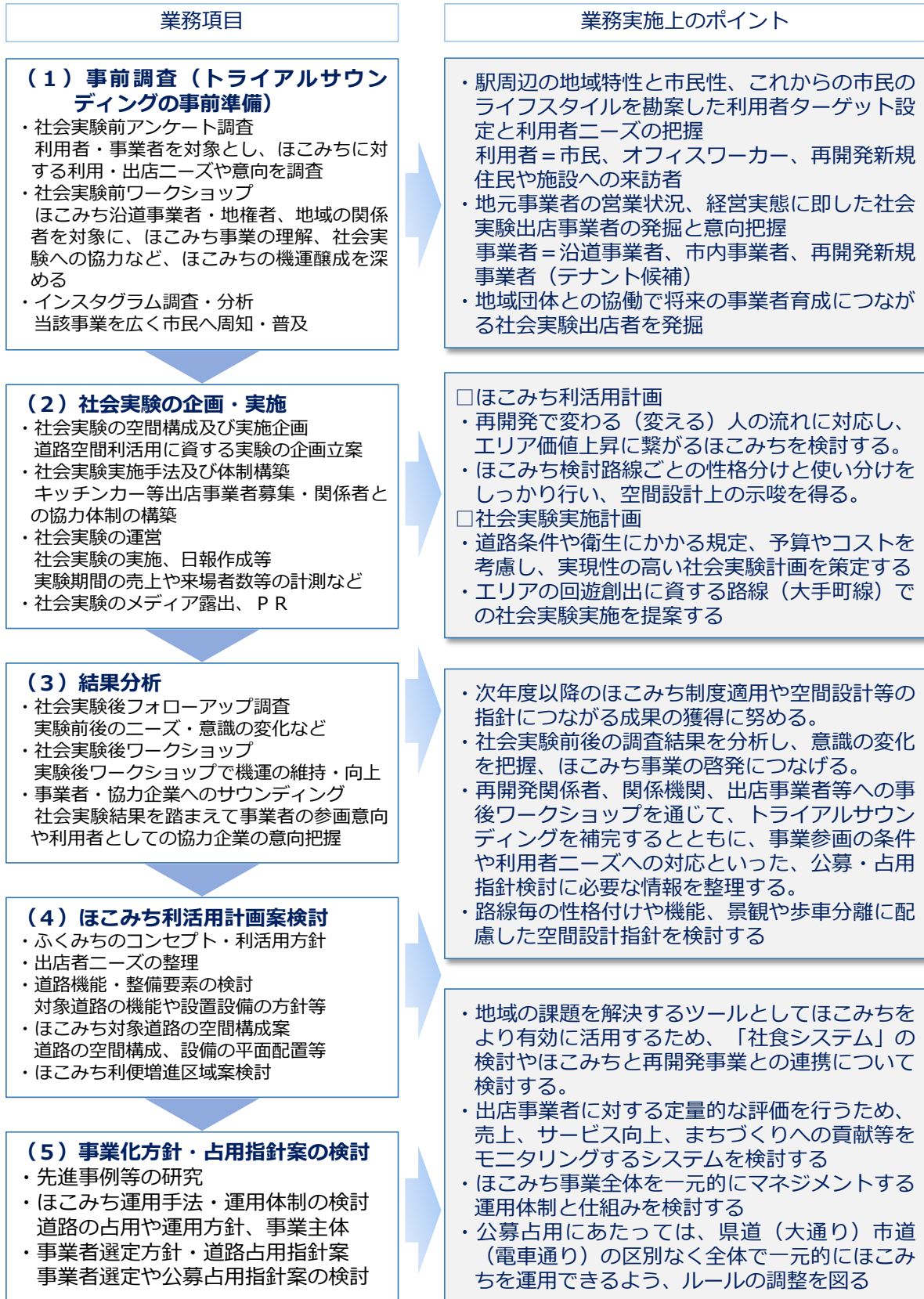
令和3年10月～ 社会実験結果分析、事業者・協力会社へのサウンディング

令和3年11月～ 関係機関との協議、利活用計画・占用指針等の検討

令和3年12月～ 結果とりまとめ、報告書作成



## 2-2. 調査の流れ



### 3章. 事前調査（トライアルサウンディングの事前調査）

#### 3-1. 調査の概要

##### ・社会実験の事前準備概要

福井県内初のほこみち事業の実現につながる調査検討を行うため、事前にターゲットの設定を的確に行うと同時に、利用者・事業者のニーズをWEBアンケートにより詳細に把握した。

また、ほこみち検討対象道路の沿道企業や事業関係者に対し、ほこみち事業への理解と事業参画意識を醸成するため、社会実験の実施前・実施後に、事業関係者等を招聘してワークショップを実施し、事業者の発掘にも繋げていった。

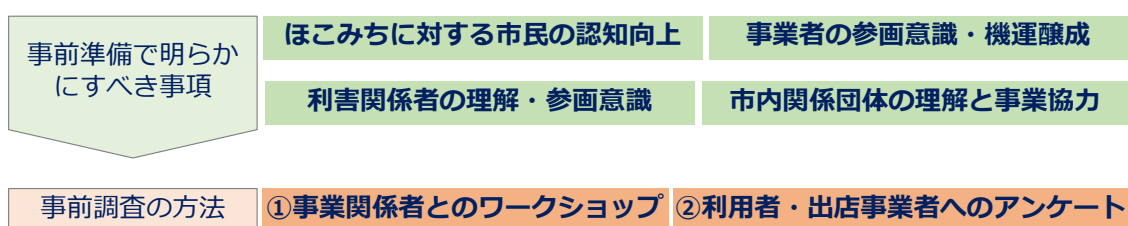


図 3-1-1 サウンディング・社会実験の事前準備

##### ・アンケート調査概要 目的と内容・設問項目

ターゲット毎の課題認識を踏まえたアンケートを実施、設問を設定した。

社会実験実施による意識やニーズの変化を計測するため、アンケートは社会実験実施前と実施中、実施後の3回行い、ほこみちに対する市民の啓発、認知度向上を同時に図った。

調査期間	調査対象	趣旨・目的
社会実験前	一般市民（駅利用者・観光客含む）	駅周辺・ほこみち利用ニーズ把握、駅周辺に対する評価
	通勤者（駅周辺オフィスワーカー等）	駅周辺・ほこみち利用ニーズ把握、日常使いとしての駅周辺の課題把握
	出店者・事業者	駅周辺出店意向・ほこみち出店意向・出店条件の把握
社会実験中 10月の 2週間程度	社会実験利用者アンケート（一般市民・通勤者）	実際に社会実験を体験しての感想と再開発施設への期待・ほこみち利用ニーズの把握
	社会実験出店事業者アンケート	実際に社会実験を体験しての感想と再開発施設への期待・駅前出店売上とほこみちへの出店意向の把握

図 3-2-2 アンケート調査の概要

### 3-2. 社会実験前アンケート調査

#### 1) 目的・調査方法

##### ・ターゲット設定と課題認識

利用者・出店事業者のニーズ把握のためのアンケート実施にあたり、各々のターゲット設定とほこみちに関して各ターゲットの現状と抱える課題は以下のとおりである。

#### ターゲット設定とニーズ調査に向けた課題認識【利用者】

既存利用者属性	駅前利用状況	課題
地域住民	日中は通勤通学先に行きまちなかには不在 自営業・店主のみまちなかに滞在	地域住民がまちなかに出る動機の不在、休日の楽しみが少ない
駅利用者	朝夕の通勤通学時のみ駅周辺を通行	勤務先・通学先と家の往復以外に駅周辺を利用する目的や機会に乏しい
オフィス通勤者	日中勤務場所にいるが、周辺にランチを楽しむ場所が少なく、まちなかに出ることがほほえない	ランチのバリエーションがない 就業前後の楽しみ、習い事や健康づくりのスポーツの場所がない
通学者	日中および夜間授業を受けているが、まちなかに出ることがほほえない	同上 友人たちと気軽に憩える場所がない
市民・来街者	まちなかよりは郊外の大型商業施設を利用する市民が多い	定期的な駅前イベント以外に来訪機会がない 郊外とは違う魅力、来訪目的がない
観光客	観光の中継地点にとどまり滞在型観光でない	中継以外の来訪目的がない



再開発施設における利用者属性	駅前利用状況
マンション住民	シニア世帯・子育て世帯の新たな生活環境の構築
施設利用者	日中および夜間利用の増加 商業施設利用の多世代利用
オフィス通勤者	オフィスに留まらず、施設内外の空間を多目的活用

利用者の共通課題（仮説）  
⇒QOL 暮らしの質の向上

- ・ターゲット属性に対応したニーズ調査の実施
- ・利用者ニーズ・出店意向調査は社会実験の前後に実施し、実験による意識の変化を把握するとともに市民の啓発、認知度向上を図る

#### ターゲット設定とニーズ調査に向けた課題認識【出店事業者】

既存事業者属性	駅前状況	課題
駅周辺事業者	自営業・商店街・ナショナルチェーン・デパート等の再活性化への期待	平日だけでなく、平常休日の集客企画が少ない
市内事業者	郊外大型商業施設への出店が加速	駅前出店への魅力・動機が見えない
市外事業者	出店の機会損失が長期化 (コロナ禍影響)	駅前出店への魅力・動機が見えない
キッチンカー	出店への機会損失が継続	出店への道路占用、イートイン席の確保が課題
デリバリー	(状況不明)	郊外にはない目的、駅前イベント以外来訪がない



再開発施設における事業者属性	駅前状況
ホテル	駅前には国内外の観光客を迎えるコンテンツが不足 駅前から各地域へのMaaSも未整備
オフィス	地元企業成長に必要な人材確保が課題
カンファレンス	地元ニーズはあるものの、県外、国外の大型会議の誘致が課題
店舗	駅前の滞在価値、来街目的が希薄
広場	地域ワーカー、近隣住民のニーズが見えにくい 駅前に対する体系的なニーズ調査が不在

事業者の共通課題（仮説）

- ⇒・出店魅力
- ・集客装置
  - ・企画イベント
  - ・出店の手続き簡略化
  - ・ワンストップ化
  - ・安定収入
  - ・創業拡張支援

図 3-2-1 ターゲット設定と課題認識 利用者・出店事業者

・3 種類のアンケート調査内容

アンケートフライヤー・QRコード

各ターゲットに、関係団体を通じて調査対象を抽出し、市民や企業等に調査実施を告知、アンケートはWEB調査（QRコード読み取りで回答できる方式）により、誰でも手軽に回答できる方法を採用した。アンケート依頼と同時にワークショップ案内を作成し、駅周辺企業や事業者へ協力を依頼した。

アンケート調査の実施協力を依頼する関係団体	
1) まちづくり福井	駅利用者、駅周辺オフィス、地元事業者、再開発関係者等への調査依頼
2) 地元経済団体・金融機関	経済界に所属する企業の経営層・総務部門に協力依頼、企業の従業員に対して回答を依頼
3) 商店街・地元事業者	所属する企業・店舗の経営層・総務部門に協力依頼、所属企業の従業員に対して回答を依頼
4) 行政機関	県と市はほこみちのメインユーザー。所属する官公庁の官房部門に協力依頼、各機関の職員に対して回答を依頼

図 3-2-2 想定されたターゲット設定と課題認識 利用者・出店事業者

関係団体を通じて調査対象を抽出した結果、3種類のアンケートを作成し配布した。

利用者ニーズ	Instagram やフライヤーを福井駅前利用者に配布
通勤者ニーズ	福井駅前オフィスエリア企業へ訪問協力依頼、官公庁に Instagram やフライヤーを配布
事業者ニーズ	商業施設、商工会議所へフライヤーおよび FAX 用回答紙面配布



図 3-2-2 趣旨説明フライヤー



図 3-2-3 第1回ふくみちワークショップフライヤー

ご協力  
おねがい  
します!!

## 利用者アンケート

期間 R3.8/23～9/6

ふくみちプロジェクトでは「ほこみち制度導入」の実現に向けて様々な活動を行っています。福井県駅周辺をより歩行者に快適なまちにしたいために何が必要か、皆さまの「意見をお聞かせください」。

皆様の声が、「ふくみちプロジェクト」のヒントになります。

▲アンケートはこちらから

※このアンケートの所要時間は5分程度です。

**社会実験を行います!!**

**社会実験実施概要**

**実施予定時期 10月の2週間**

歩行者利便増進道路「ほこみち制度」福井版「ふくみちプロジェクト」の実験です。道路でお店やイトイン、アートやスポーツが楽しめるのか？**毎日楽しめる場所にするには？**全力で準備中です!!  
皆さま是非ご参加ご協力ください!

**Instagramはじめました。**

ふくみちプロジェクト詳細 Instagramで随時更新中

#ふくみち #ほこみち #福井駅周辺 #毎日楽しめる

**第1回ワークショップオンライン視聴のご案内**

ふくみちプロジェクトでは、アンケート実施のほか、プロジェクトの進捗状況や実施内容等を行うワークショップを開催します。専門の講師は一部オンラインで視聴できます。視聴は無料です。

詳細は、ふくみちのInstagramでご案内します。

図 3-2-4 利用者ニーズアンケートフライヤー

ご協力  
おねがい  
します!!

## 通勤者アンケート

期間 R3.8/23～9/6

ふくみちプロジェクトでは「ほこみち制度導入」の実現に向けて様々な活動を行っています。福井県駅周辺をより歩行者に快適なまちにしたいために何が必要か、皆さまの「意見をお聞かせください」。

皆様の声が、「ふくみちプロジェクト」のヒントになります。

▲アンケートはこちらから

※このアンケートの所要時間は5分程度です。

**社会実験を行います!!**

**社会実験実施概要**

**実施予定時期 10月の2週間**

歩行者利便増進道路「ほこみち制度」福井版「ふくみちプロジェクト」の実験です。道路でお店やイトイン、アートやスポーツが楽しめるのか？**毎日楽しめる場所にするには？**全力で準備中です!!  
皆さま是非ご参加ご協力ください!

**Instagramはじめました。**

ふくみちプロジェクト詳細 Instagramで随時更新中

#ふくみち #ほこみち #福井駅周辺 #毎日楽しめる

**第1回ワークショップオンライン視聴のご案内**

ふくみちプロジェクトでは、アンケート実施のほか、プロジェクトの進捗状況や実施内容等を行うワークショップを開催します。専門の講師は一部オンラインで視聴できます。視聴は無料です。

詳細は、ふくみちのInstagramでご案内します。

図 3-2-5 通勤者ニーズアンケートフライヤー

ご協力  
おねがい  
します!!

## 事業者アンケート

期間 R3.8/23～9/6

ふくみちプロジェクトでは「ほこみち制度導入」の実現に向けて様々な活動を行っています。福井県駅周辺をより歩行者に快適なまちにしたいために何が必要か、皆さまの「意見をお聞かせください」。

皆様の声が、「ふくみちプロジェクト」のヒントになります。

▲アンケートはこちらから

※このアンケートの所要時間は5分程度です。

**社会実験を行います!!**

**社会実験実施概要**

**実施予定時期 10月の2週間**

歩行者利便増進道路「ほこみち制度」福井版「ふくみちプロジェクト」の実験です。道路でお店やイトイン、アートやスポーツが楽しめるのか？**毎日楽しめる場所にするには？**全力で準備中です!!  
皆さま是非ご参加ご協力ください!

**Instagramはじめました。**

ふくみちプロジェクト詳細 Instagramで随時更新中

#ふくみち #ほこみち #福井駅周辺 #毎日楽しめる

**第1回ワークショップオンライン視聴のご案内**

ふくみちプロジェクトでは、アンケート実施のほか、プロジェクトの進捗状況や実施内容等を行うワークショップを開催します。専門の講師は一部オンラインで視聴できます。視聴は無料です。

詳細は、ふくみちのInstagramでご案内します。

図 3-2-6 事業者ニーズアンケートフライヤー

## アンケート設問概要

	回答対象者	設問内容
利用者ニーズに関するアンケート	福井駅前に訪れた一般来場者	1. フェイスシート 2. 現状福井駅前利用の質問 3. ライフスタイルの質問 4. 理想とする駅周辺環境への質問
通勤者ニーズに関するアンケート	福井駅前オフィスエリアの民間企業および行政職員	1. フェイスシート 2. 現状福井駅前利用の質問 3. 現状ランチ環境の質問 4. 理想とする駅周辺環境への質問
事業者ニーズに関するアンケート	福井市内外の事業者・ほこみち事業出店可能性の事業者	1. フェイスシート 2. 現状福井駅前の出店意欲の質問 3. 理想とする駅周辺環境および出店意欲の質問

図 3-2-7 アンケート設問概要一覧

## 2) アンケート結果

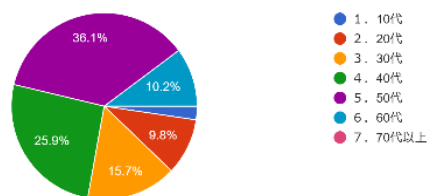
ふくみち社会実験前 利用者ニーズに関するアンケート

### ・アンケート結果概要

実施期間	令和3年8月23日～9月6日
アンケート回答者	福井駅周辺の利用者
回答方式	WEBでの記載
回答数	255件

- ・回答割合は男性が約7割、女性が約3割。

1-2. あなたの年代をお答えください。  
255件の回答



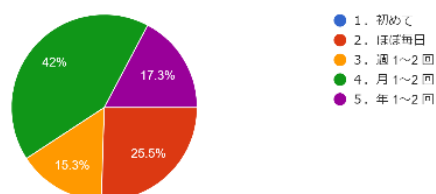
- ・回答世代は50代が最多、10代が最小。
- ・回答者は9割以上が通勤者で、学生は約2%。
- ・同居している子どもがいない割合が約6割。

- ・福井駅前利用は、通勤通学以外では「飲食・買い物」が最多で、駅前にしかない店舗利用が理由となった。
- ・駅利用率が低く、年1・2回利用が4割を超えた。

2-3. 福井駅周辺をどのくらいの頻度で利用されていますか？

もっとも近いものにチェックをしてください。

255件の回答



- ・駅前での移動手段は自家用車が最多。
- ・夕方の過ごし方は、自宅への直帰が8割超。休日も6割が自宅で過ごすとの回答。
- ・休日は福井駅以外へ出かけるとの回答が多く、駅利用は少数。家族と過ごす、農作業という回答が見られた。
- ・福井駅周辺環境が居心地の良い空間に変化した場合、「とても利用したい・利用したい」の回答割合は6割を超え、休憩ができ、木漏れ日のある歩道が広い空間が良いとの回答が多かった。

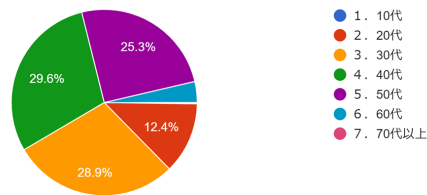
## ふくみち社会実験前 通勤者ニーズに関するアンケート集計結果

### ・アンケート結果概要

実施期間	令和3年8月23日～9月6日
アンケート回答者	福井駅周辺の通勤者
回答方式	WEBでの記載
回答数	467件

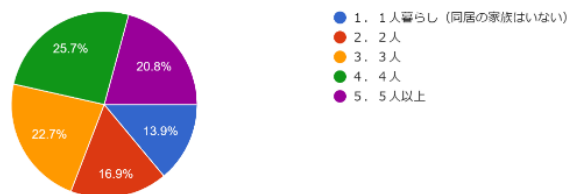
- ・回答割合は男性が約5割、女性が約4割。
- ・回答世代は30代が最多、10代が最小(1件)。

1 - 2. あなたの年代をお答えください。  
467件の回答



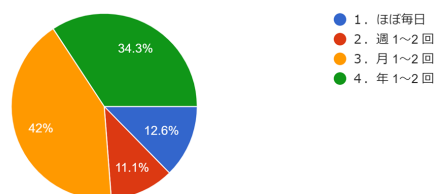
- ・回答者は公務員が約 5 割、会社員が約 4 割。
- ・居住地は福井市内・福井駅周辺以外が最多。
- ・勤務場所は福井駅周辺が 8 割超。
- ・同居家族の人数割合は 20%前後で分かれ、同居している子どもがいないという回答が約 6 割となった。

1 - 6. あなた自身を含めた、同居家族の人数をお答えください。  
467件の回答



- ・通勤通学以外、4 割以上が月 1~2 回、3 割以上が年 1~2 回の福井駅周辺利用と回答。

2 - 1. 通勤以外の場合、どのくらいの頻度で福井駅周辺を利用されていますか？  
もっとも近いものにチェックをしてください。  
467件の回答

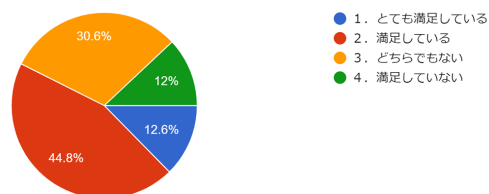


- ・駅までの移動手段は自家用車が最多、1 人での行動が最多で、次点が家族との行動。
- ・福井駅周辺の満足度の高さでは、「利便性・交通アクセスの良さ」が最多、百貨店・映画館、駅前にしかない店舗利用があげられた。
- ・福井駅周辺の不満な点は、「商業施設の少なさ」が最多で、次点が「友人や家族と遊びに行く場所が思いつかない」。



- ・夕方は8割以上が家に直帰、休日も5割が自宅で過ごすとの回答。
- ・休日の過ごし方は週末の買い出しや、家族と過ごす、子どもの活動サポートという回答が見られた。
- ・ランチ形態はお弁当が最多、会社で食べるが最多。満足度は約5割以上が満足。

3-5. あなたは現状のランチ形態に満足していますか。  
467件の回答



- ・ランチへのニーズは「手頃な価格で飲食できる」が最多で、次点が「日替わりのメニューが豊富にある」。
- ・福井駅周辺の通りの再整備内容で利用したいとする回答は、「日差しを遮る木陰、芝生」が最多。

## ふくみち社会実験前 事業者ニーズに関するアンケート集計結果

### ・アンケート結果概要

実施期間	令和3年8月23日～9月6日 延長期間9月24日～10月1日
アンケート回答者	福井市周辺の事業者
回答方式	WEBでの記載
回答数	2件
回答方式	FAXでの記載
回答数	16件

- ・業務形態は約4割が「店舗・イートイン席あり」、「キッチンカー」は1件、すべて飲食業。
- ・営業日は毎日、ほぼ毎日が約7割。
- ・営業区域は8割が福井市内、約4割が駅周辺。
- ・駅前に出店してみたい意向は約4割、出店しないが約4割。
- ・出店してみたい理由として、新幹線開業や再開発事業の影響を上げるコメントが見られた。

- 出店の不安な点は、現状店舗との共存、業務拡大のリスクなどがあげられた。
- 福井駅周辺環境が居心地の良い空間に変化した場合、天候を心配する声や都会的でおしゃれな空間への期待を持つコメントが見られた。
- 福井駅周辺でキッチンカーをする場合の必要な機能整備には「電源」が最多。

• **社会実験前アンケート調査詳細**

- 通勤通学以外の福井駅周辺利用が想定以上にされていないことが判明。
- 一方で、少数派の利用は自家用車が最多であるが、駐車場の立地、料金について、百貨店の利用以外に利用者側からのコメントは少なかった。
- 福井駅周辺の不満な点の具体的な理由に、緑やベンチが少ないといった屋外利用についての回答も多く寄せられた。
- 雨天や雪などを心配する声よりも、木陰のある空間を求める声が多かった。
- ランチの満足度が高めに出ているが、どちらでもない意見が多かった。
- 事業者調査は回答数が少なく、現状店舗を維持しながらの業務拡大の発想が多く見られたため、消極的な意見もあった。

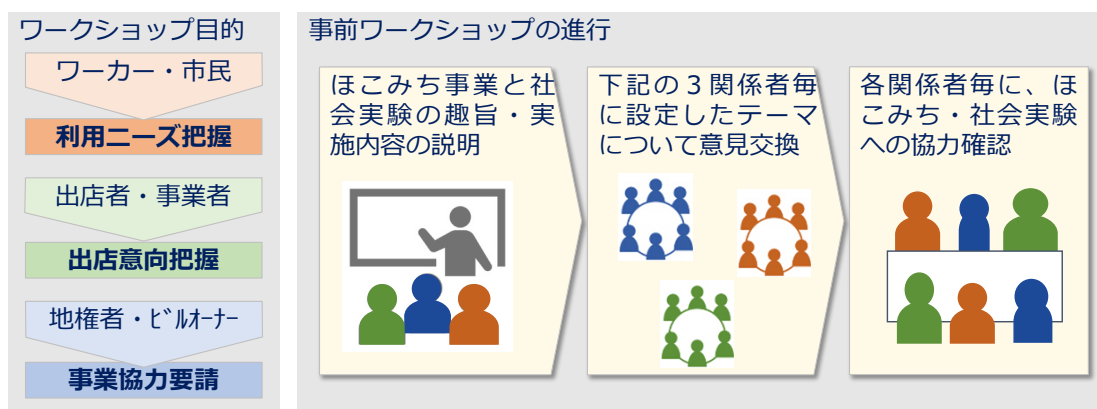
### 3-3. 社会実験前ワークショップ調査

#### 1) 目的・実施方法

##### ・ワークショップの手法・進め方

・ワークショップは以下の趣旨および実施手法に基づいて、社会実験前・社会実験後の2回実施した。

#### ○ワークショップ 実施の流れ



#### ○ワークショップ テーマ設定と獲得目標について

参集する事業関係者 WS狙い	ワークショップのテーマ
<b>○再開発事業関係者</b> (A街区再開発組合関係者) ・再開発との連携、課題を解消	<b>◆ほこみち連携のメリット理解、テナント育成</b> <span style="float: right;">2</span> ・再開発との関係を正しく理解（空間面、運営面） ・将来の事業者やほこみち運営の担い手発掘
<b>○沿道地権者・既存事業者</b> ・ほこみち事業の理解、計画段階から参画する意識を醸成 ・ほこみち事業を自分ゴトに	<b>◆ほこみちを自分ゴトとして捉える意識醸成</b> ・沿道地権者：参画の意義と参画方法の模索 ・同業事業者：競合関係や自身の店舗への影響を理解しつつ、差別化とほこみち参画で事業者の参画機会を増大
<b>○地元経済団体</b> ・ほこみち事業・社会実験への理解、参画に向けた機運醸成 ・各種調査への協力、調査対象への告知・周知	<b>◆ほこみち事業を市の活性化のトリガーとして社会運動化</b> ・本調査事業の趣旨を周知し、事前事後調査、社会実験への協力を取り付け ・ほこみち事業への理解と参画意識を高める ・団体のネットワークを活用した市内事業者の発掘

図 3-3-1 ワークショップの手法とテーマ

## 2) ワークショップの実施内容、実施結果

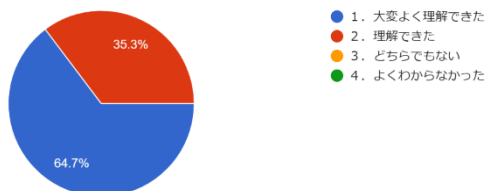
### ・第1回ワークショップ

#### 第1回ワークショップ概要

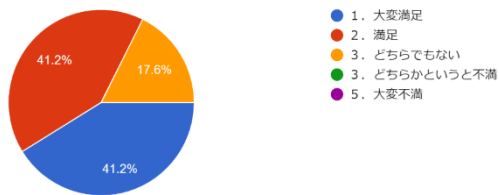
日 時	令和3年9月3日（金）14:00～15:30
会 場	ハピリンホール
内 容	<p>① 事業趣旨説明（森ビル都市企画株式会社）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほこみち」制度の紹介</li> <li>・事例紹介（東京丸の内、神戸三ノ宮 等）</li> <li>・「ふくみち」プロジェクトの概要</li> </ul> <p>② 意見交換（総合ファシリテーター 福井県立大学 准教授 高野翔氏）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路空間活用法や楽しみ方について</li> </ul>
参加者	<p>29名</p> <p>※沿道ビルテナント社員、再開発関係者、出店事業者 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席者 29名、6グループに分け、各テーブルにサブファシリテーターを配置。</li> </ul>

- ・意見交換中正面画面に東京都：丸の内仲通り社会実験撮影動画上映
- ・Instagram ライブ  
最大13人視聴、Instagram リールでの視聴は50人以上
- ・ワークショップ終了後アンケート調査結果
- ・前半説明についてはほぼ全員が理解、後半グループワークの満足度80%以上。
- ・想定より多彩な意見や指摘があり、2回目ワークショップテーマに反映。

2-1. ほこみちの制度の説明について、あてはまるものを選択してください。  
17件の回答



3-1. ディスカッション内容について、あてはまるものを選択してください。  
17件の回答



### 第1回ふくみちワークショップ分析

- (1) 空間活用の可能性を感じてもらおうという第1回ふくみちワークショップの目的は概ね達成できたと考える。同時に、コロナ禍におけるワークショップへの影響もあり、グループ内で声が聞こえづらい等の課題も見られたため、第2回ワークショップにて改善も必要。
- (2) 福井の中心市街地でやってみたい空間活用や楽しみ方のアイデア出しを行い計150個のアイデアが出された。公共空間活用の大家であるヤン・ゲールの12の質的基準をもとに分類整理を実施【参考図書】『人間の街』ヤン・ゲール著、北原理雄訳/鹿島出版会、2014。具体的な質的基準とそれに該当するアイデア数は以下の通り。なお12の質的基準は理想的な公共空間が持つ質をアイレベル目線で分類したものである。
  - ① 交通と事故からの保護-安全 (2 アイデア)
  - ② 犯罪と暴力からの保護-治安 (2 アイデア)
  - ③ 不快な感覚体験からの保護 (5 アイデア)
  - ④ 歩く機会 (7 アイデア)
  - ⑤ 座る機会 (7 アイデア)
  - ⑥ 会話の機会 (2 アイデア)
  - ⑦ たたずみ/滞留する機会 (61 アイデア)
  - ⑧ 眺める機会 (10 アイデア)
  - ⑨ 遊びと運動の機会 (20 アイデア)
  - ⑩ スケール (6 アイデア)
  - ⑪ 良好な気候を楽しむ機会 (6 アイデア)
  - ⑫ 良好な感覚体験 (13 アイデア)
  - ⑬ その他 (9 アイデア)

ワークショップの設計時点で重視していた「⑦ たたずみ／滞留する機会」や「⑨ 遊びと運動の機会」のアイデア数が予想通りに多かったのが、それ以外の質的基準に関するアイデアも幅広く出されており、参加者が空間活用を広い視野にて発想することができていることが伺える

(3) 第2回ふくみちワークショップにてアイデアを形にしていくことに可能性のあるテーマは以下の通り。

- ③ 不快な感覚体験からの保護：屋根機能の重要性
- ④ 歩く機会：歩くきっかけづくり
- ⑤ 座る機会 + ⑥ 会話の機会：パブリックファニチャー創出
- ⑦ たたずみ／滞留する機会：仕事空間・飲食空間・リラックス空間（足湯等）の検討
- ⑧ 眺める機会：照明・ライトアップ・掲示の重要性
- ⑨ 遊びと運動の機会：アクティビティの検討
- ⑩ スケール：子ども空間という視点の重要性
- ⑪ 良好な気候を楽しむ機会：日陰の重要性
- ⑫ 良好な感覚体験：音楽環境の創出
- ⑬ その他：企業参画と若者参画の仕掛けづくり

(4) 総計三回のワークショップを参加者との情報共有のプラットフォームとしながら、実際のふくみちへの具体的な参画促進には別途仕掛けが必要。第2回ふくみちワークショップでは、全体でのワークショップ以外に、希望者がふくみちへの関与の仕方について福井市・まちづくり福井・森ビル都市企画と個別相談できる時間や場の設定が必須と考える。大きく分けて、組織による仕事の枠組みでの関与と個人による個々人の関与のあることでの関与の二つが想定され、両方ともにかかわりしるを準備しておくことが必要。

(5) 社会実験ふくみちに向け、第1回ふくみちワークショップで出たようなコンテンツを引き出し包み込むために空間デザイン設計が重要。同時に、社会実験への関係者の空間デザインに関する能動的関与を引き出すために事業主である福井市役所の社会実験の趣旨や姿勢に関する関係者への説明も継続して重要。



## ・第2回ワークショップ

### 第2回ワークショップ概要

日 時	令和3年9月13日（金）14:00～15:30
会 場	ハピリンホール
内 容	<p>① 前回のふり返し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回出たアイデアの類型と総括（福井県立大学 准教授 高野翔氏）</li> <li>・第1回参加者のアンケート結果概要報告（森ビル都市企画）</li> <li>・ニーズアンケート結果速報（森ビル都市企画）</li> </ul> <p>② 意見交換（福井県立大学 准教授 高野翔氏）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路空間活用法について、アイデアをカタチにするワーク</li> </ul> <p>③ 社会実験内容紹介（森ビル都市企画）</p> <p>※ワークショップ終了後、個別相談会を実施</p>
参加者	<p>17名</p> <p>※沿道ビルテナント社員、再開発関係者、出店事業者 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席者17名、5グループに分け、各テーブルにサブファシリテーターを配置。</li> </ul>

### 第2回ワークショップ終了後個別相談会概要

相談者	相談内容
NTT 西日本	<p>実験期間中と実験後に3週間程度、人流解析調査に協力したい。</p> <p>⇒人流データ調査用カメラの設置。調査・解析を実施。</p>
地域フロンティア ラボラトリー	<p>企業局庁舎1階に設置しているアウトドア用品（イス、テントなど）を実験期間中、割安でレンタルできないか検討。</p> <p>⇒今回の実験では見合わせ。</p>
福井大学生	<p>毎週金曜日に中央公園で屋台を出店しており（黄色いおでん屋）、社会実験期間中に店出したい。</p> <p>⇒実験期間中の週末に出店。</p>
旭化成株式会社	<p>福井の繊維を使ったクッションやマットレスなどを提供したい。</p> <p>⇒椅子やソファで使用。</p>

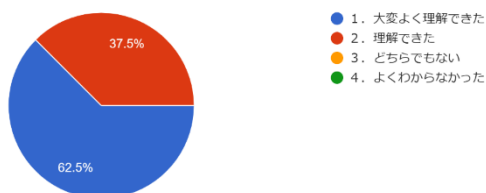


## 第2回ワークショップ詳細

- ・ InstagramWS録画配信は、第1回が92人、第2回が78人視聴
- ・ ワークショップ終了後アンケート調査結果  
前半説明についてはほぼ全員が理解、後半グループワークの満足度80%以上。

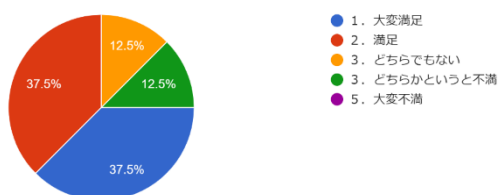
2-1. 第1回ワークショップの振り返りの説明について、あてはまるものを選択してください。

8件の回答



3-3. グループワーク内容について、あてはまるものを選択してください。

8件の回答



## 第2回ふくみちワークショップ分析

### (1) ワークショップの目的

「アイデアをカタチにするエクササイズ」と題したワークショップを開催。1回目のワークショップ結果から導きだされた各テーマをもとに、グループ毎に実際に企画を構想し、アイデアをカタチするために必要なことを模擬体験することを目的とした。

### (2) ワークショップの各テーマ

グループA×「遊びと運動の機会：スポーツアクティビティ」

グループB×「良好な感覚体験：音楽環境」

グループC×「たたずみ/滞留する機会：飲食空間」

グループD×「座る機会と会話の機会：パブリックファニチャー」

グループE×「たたずみ/滞留する機会：リラックス空間」

(3) ワークショップの発表内容

【グループA×「遊びと運動の機会：スポーツアクティビティ」】

キャッチフレーズ「普段着のスポーツエリア」

駅前空間ならではの日常生活におけるスポーツエリア

企画例：昼の運動、子供と一緒に遊べるイベント、ジムと提携した体力測定等

【グループB×「良好な感覚体験：音楽環境」】

キャッチフレーズ「音楽で魅せる福井の底力」「ふくみちストリートフェス」

市民参加型の音楽イベント

企画例：遠隔でのコンサートがまちなかで演奏される仕組み、ダンス風景投影等

【グループC×「たたずみ/滞留する機会：飲食空間」】

キャッチフレーズ「win-win 継続可能なフードエリア」

ステークホルダー全員が共存できるフードエリア創出

企画例：効率的かつスピーディーに接客できる会計システム、予約システムの導入等

【グループD×「座る機会と会話の機会：パブリックファニチャー」】

キャッチフレーズ「天候を気にせず利用できる空間」

企画例：屋根、照明、電気設備などを設置し不快な感覚体験からの保護

【グループE×「たたずみ/滞留する機会：リラックス空間」】

キャッチフレーズ「みんなにとって“ふく”なまち」

多様なタイミングで使う人にとってリラックス出来る空間創出

企画例：写経、座禅の企画、香り演出、マッサージチェアの導入等

(4) ワークショップの総括

参加者の数こそ限定的であったが、ワークショップを通じて密度の高い議論がなされ、上記目的は概ね達成できたものとする。

(5) 個別相談について

ワークショップ後に個別相談の時間・場を設けた。参加者と福井市・まちづくり福井・森ビル都市企画との相談が活発になされ、10月から開始されるふくみち事業やその後の公共空間活用にとって大事な関わりしらの創出になったものとする。参加者とは引き続きコミュニケーションを継続していくことが重要。

(6) ふくみちに向けて

デザインコード、空間デザイン、コンテンツの相互連携により、市民が公共空間活用の楽しさや可能性を実感してもらえる社会実験を実践する必要がある。また、ワークショップの参加者がふくみち事業を自分ごとと捉えて少しでも関与できるように、ふくみちに関係することができる企画をつくり継続して関わってもらう等の関わりしるの拡大と深化は引き続きの課題であるとする。加えて、参加者にふくみちのチラシを電子データも含めて共有し、同僚、家族・友人などにふくみちのことを伝えてもらえるように地道なコミュニケーションも重要とする。

(7) 第3回ワークショップの内容について

社会実験後の第3回ワークショップについては、社会実験結果の共有を軸にした内容になるものとする。そのほか、アイデアを創出するワークショップというよりも、例えば、社会実験結果をもとにしながら、福井におけるほこみち展開に関するパネルディスカッションをキーパーソンと実施する等もプログラムコンテンツの一案として考えられる。

### 3-4. Instagram 調査・分析

#### ・ Instagram 概要

社会実験広報告知のため、早期に Instagram を立ち上げ、準備段階から投稿をスタートさせた。社会実験およびワークショップ実施による意識やニーズの変化を計測するため、Instagram の基礎データを取得、ほこみちに対する市民の啓発、認知度向上を同時に図り、投稿数、フォロワー数、インプレッション数、属性、コメント、対応等を記録した。

### 3-5. 実験協力・協賛事業者

#### 1) 実験協力・協賛事業者と内容一覧

企業名称	協賛内容
旭化成アドバンス株式会社	オリジナル商品“住ごもり生活”快適アイテム設置、クッション等を無償貸与
NTT 西日本福井支店	人流調査協力 人流データ調査用カメラ設置・解析
フクビ化学工業株式会社	人工木材を使用した屋外家具設置 ベンチ、テーブル、ポスタースタンドなどを無償貸与「TOKYO BENCHI PROJECT 2021 in Marunouchi & Otemachi」で実績あり
福井市園芸センター	オリーブの苗木 30 本を無償貸与



図 3-5-1 社会実験協賛企業 開発商品無償貸与の様子

## 2) NTT 西日本の協力による人流分析調査の概要

「ふくみち」の社会実験期間中の人の流れや滞留時間を計測し、また平常時（実験後）にも同様の計測を行うことで、ほこみち事業の効果、つまり利用者のアクティビティ、人の流れや滞留時間にどのような変化があるかを解析した。

この取組みについては、ICTを活用したまちづくりを推進する観点から、NTT 西日本福井支店の協力を得て実施した。



**【設置期間】** (1)令和3年10月1日（金）～11日（月）、25日（月）～11月1日（月）  
 (2)令和3年10月11日（月）～25日（月）

**【設置ビル及び機器設置場所】**

・福井県水産会館ビル カメラ1台      ・県民福井ビル カメラ1台

図 3-5-2 人流分析調査概要

NTT からの提供カメラは1台のため、社会実験期間中定点観測を2カ所、平常時（実験後）の観測を1カ所、3つの期間に分けて実施した。

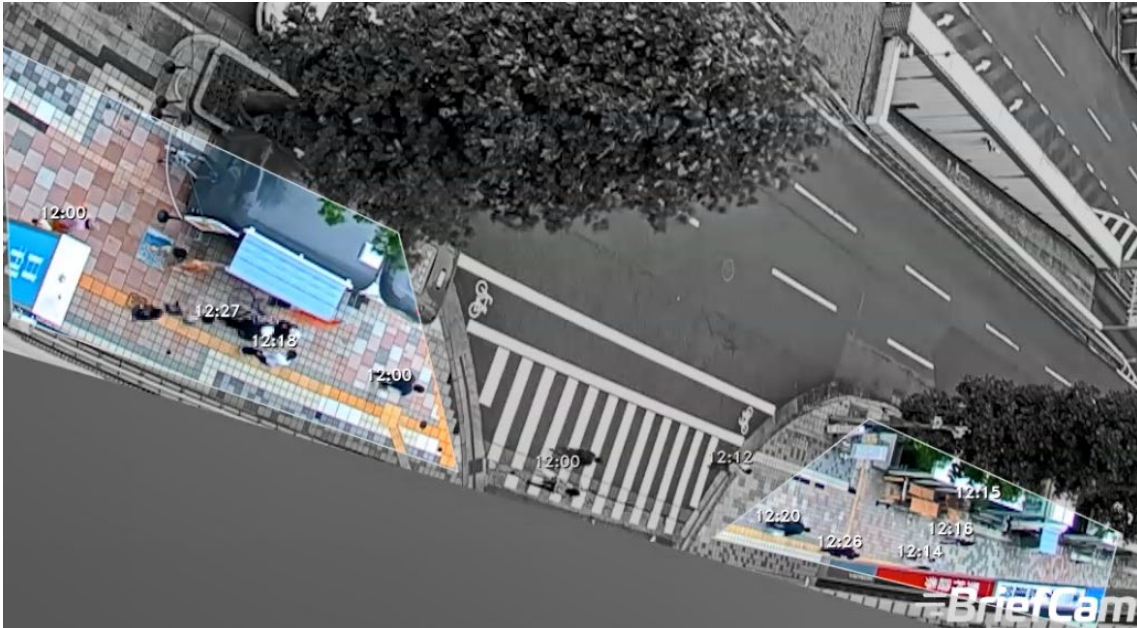


図 3-5-3 AI で抽出された人流の可視化



図 3-5-4 人々が滞留しているエリアの可視化

## 4章. 社会実験の実施

### 4-1. 社会実験の空間構成および実施企画

#### 1) 社会実験の主旨

市民や関係者に対して、福井駅前には歩行者空間創造のポテンシャルがあることを認知してもらい、「日常生活の予行演習」として持続可能な福井版ほこみち事業「ふくみち」の事業可能性を検証するための実証、データの取得を社会実験の主旨とする。

#### 2) ほこみち検討対象エリアにおける社会実験実施箇所の検討

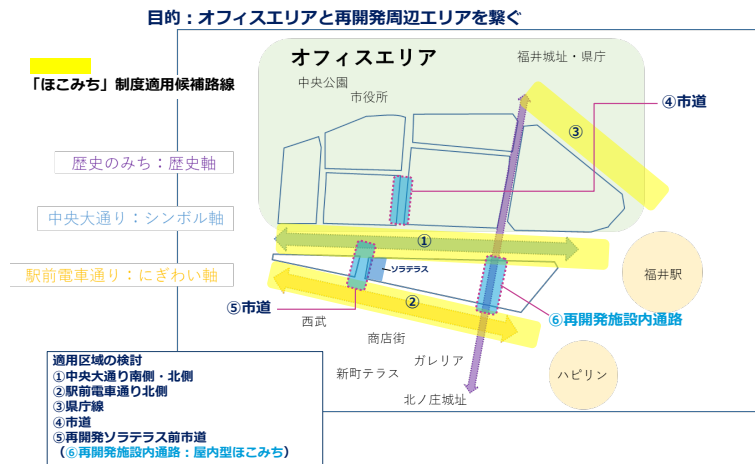


図 4-1-1 道路空間を活用すべき検討路線（案）

#### 歩行者の回遊を誘発する仕掛けづくり

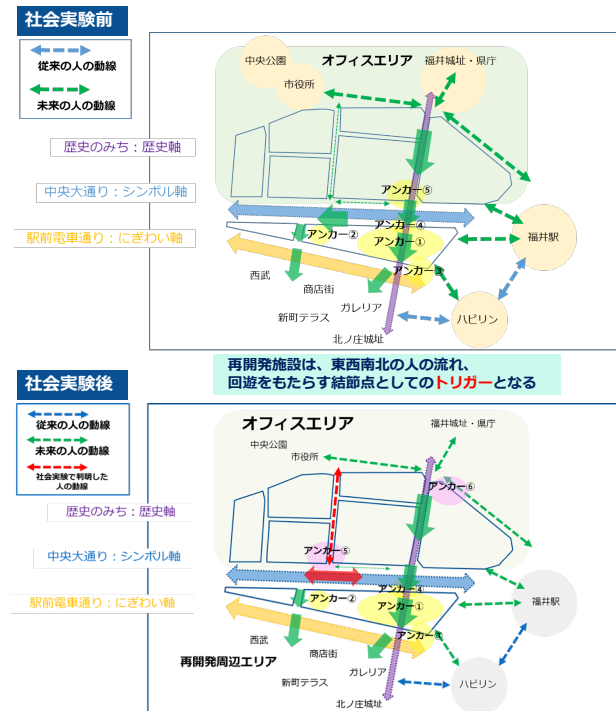


図 4-1-2 再開発事業後の人の流れを念頭に置いた福井駅周辺の回遊動線（案）

ほこみち検討対象路線周辺の市街地は、再開発事業等まちづくりにより人の流れが変わるため、通りやエリアの特性に合わせ、多様な機能を導入し、様々なニーズに対応できるようにハードおよびソフト整備が必要となる。

ほこみち制度適用道路においては、一貫性のあるコンセプトや統一感あるデザインを確保しつつ、変化する市民・事業者ニーズに柔軟に対応するため、利活用しながらほこみちの内容を変えていくことができる余白を残すことが重要である。

以上の観点を踏まえ、社会実験対象路線を定め、社会実験実施計画を検討した。

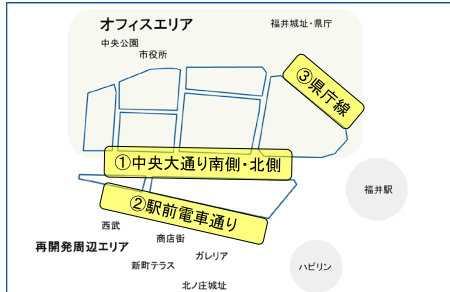
### 3) 社会実験計画

#### ・概要

<p>目的</p>	<p>居心地がよく、歩きたくなる道路空間を作るためには何が必要か、期間限定でキッチンカーやカフェ、くつろぎの場所など、市民の憩いやにぎわいを創出する空間を設置し、歩行者中心の道路へ転換する可能性を探る。社会実験空間は人優先の道路空間をイベント仕様ではなく「日常の予行演習」として作り上げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井駅周辺「みち使い」のポテンシャル調査</li> <li>・場所別・時間別に変化する仕掛けの有効性検証</li> <li>エリアに個性を持たせ、時間別・目的別に人々が回遊したくなる多様な機能と使い方の提案</li> <li>・路面店や事業者とのコラボレーションを模索</li> <li>・新たなプレイヤー発掘に向けたプレゼン</li> </ul>
<p>場所</p>	<p>中央大通り(県道、道路延長L=約400m、幅員W=44m)          県庁線(市道、道路延長L=約130m、幅員W=20m)          放送会館敷地(軒下、東側敷地)</p>
<p>期間</p>	<p>社会実験設営：令和3年10月1日(金)          社会実験実施：令和3年10月2日(土)から10月17日(日)まで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝カフェ：県庁線・7:00～9:00</li> <li>・ランチ：県庁線+中央大通り・11:00～17:00</li> <li>・バル：県庁線+中央大通り・17:00～20:00</li> </ul>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キッチンカー、オープンカフェ (モーニング、ランチ、カフェ、バルタイム)</li> <li>・アクティビティ (図書館、マスキングテープWS、音楽演奏など)</li> </ul>

### 「ほこみち」の適用検討路線（案）

- ① 中央大通り南側・北側
- ② 駅前電車通り北側
- ③ 県庁線



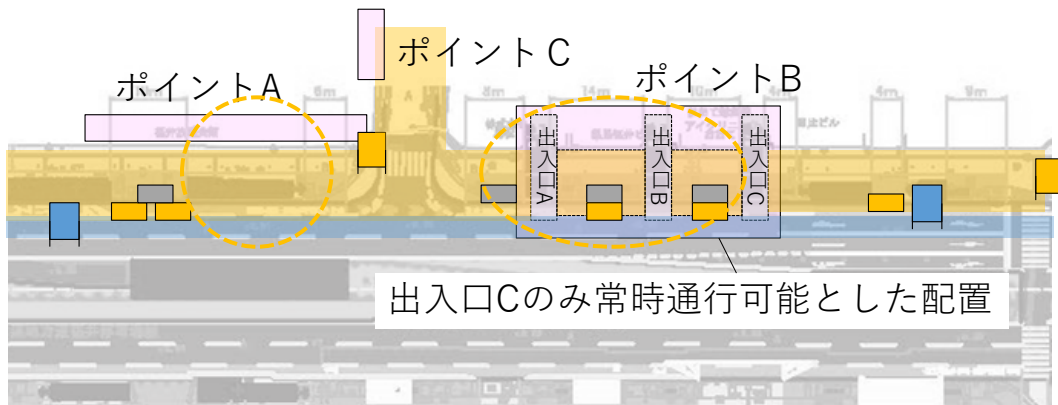
### 社会実験実施場所

- ① 中央大通り北側  
ほか市道一部
- ② 県庁線・御本丸大手町線



図 4-1-3 ほこみち検討路線と社会実験実施場所

### 中央大通り北側 社会実験場所シミュレーション



- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: #f9c79f; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></span> 歩行者優先エリア</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: #f99d4c; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></span> 利用者案内</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: #4a90e2; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></span> 車道利用者案内</li> </ul> | <p><b>歩行者の速度に合わせ、対象エリア道路全体の低速化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩行者優先エリアを三角看板で表示。</li> <li>・ 歩行者と車道を遮るコーンなどは極力設置せず、安全なエリアを確保</li> <li>・ 車道利用者（自動車運転者）用にも看板を設置。</li> </ul> |
|---|---|

図 4-1-4 中央大通り北側 社会実験機能別エリア図





図 4-1-5 中央大通り北側 社会実験場所シミュレーション

県庁線 社会実験場所シミュレーション

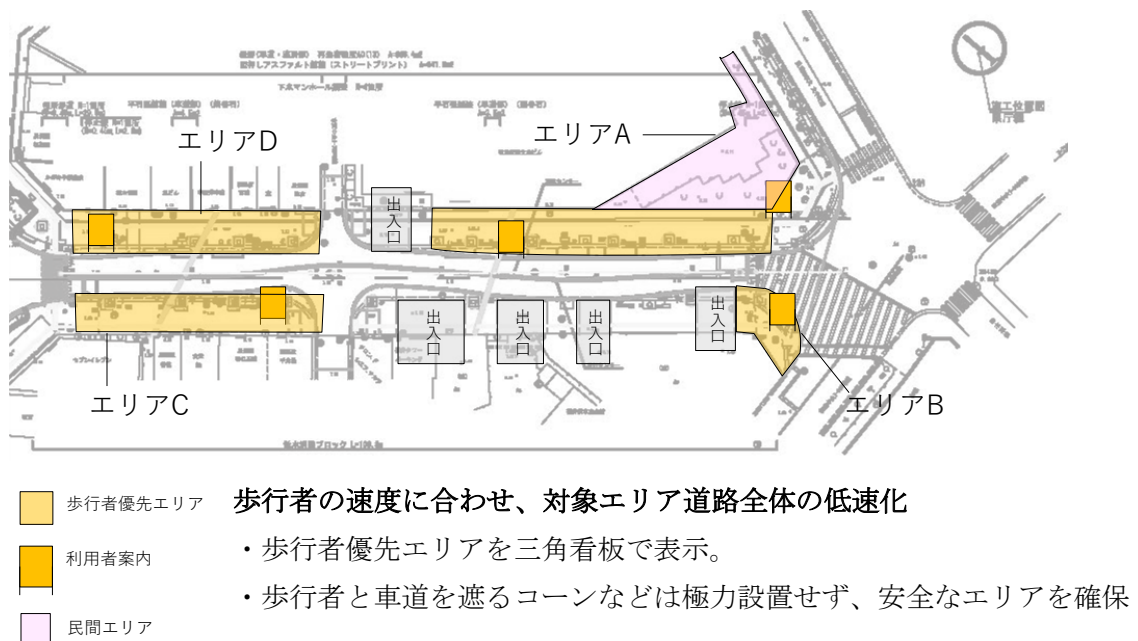


図 4-1-6 県庁線 社会実験機能別エリア図



図 4-1-7 県庁線社会実験シミュレーション